

【ポスター発表】

通所介護施設における利用者間で行われる

ソーシャルサポートの実態に関する研究

—通所介護施設における施設職員を対象とした FGI の結果から—

○ 関西福祉科学大学 家高 将明 (7811)

キーワード3つ：ソーシャルサポート 通所介護 フォーカス・グループ・インタビュー

1. 研究目的

通所介護については利用者における身体機能の維持・向上を図る機能や社会性の維持・回復を図る機能、家族における介護負担軽減を図る機能の3つを担うとされている。通所介護がもつ社会性の維持・回復を図る機能については、利用者間の交流により、互いを高めあう刺激が生まれることや、利用者の自信が回復するといった効果がみられることが報告されている（デイサービス支援効果調査研究委員会,2007）。そしてこの施設内における利用者同士の交流については、その一部を社会的な関係の中でやりとりされる支援を指すソーシャルサポートとしてみなすことができる。

筆者はこれまで、通所介護施設内で展開される利用者同士の間で行われるソーシャルサポートに着目し、その効果について検証してきた。その結果、他の利用者に対して手助け等のサポートを行った利用者は自尊心が高まり、うつの程度が軽減する可能性がある一方で、他者からサポートを受けることにより、自尊心や自律性が損なわれるなどの否定的効果があることを確認した（家高,2010；家高ほか,2013）。しかしながら、筆者がこれまで実施してきた調査は、量的調査を中心としており、施設内で展開されるソーシャルサポートを具体的にとらえることができていないという課題をもつ。

そこで本研究は、通所介護施設で働く施設職員を対象にフォーカス・グループ・インタビュー（以下、FGI とする）を実施し、施設内で展開されるソーシャルサポートの実態を具体化するとともに、そこからみられる課題を明らかにすることを目的とする。

2. 研究の視点および方法

本研究は、通所介護施設内で展開される利用者同士の間で行われるソーシャルサポートの実態をとらえるために、異なる3か所の地域において、それぞれの地域に設置される通所介護施設で働く施設職員を対象に FGI を実施した。1回あたりのインタビューは4～5名とし、合計13名を対象とした。FGI の討議は、半構造化インタビューによって行った。実施期間は、2015年9月～2015年12月である。

FGI における分析は、調査データの中で重要だと思われる重要アイテムを抽出し、重要アイテムを類似した内容ごとに重要カテゴリーに分類する方法で行った（安梅,2001）。本稿においては重要アイテムを《 》、重要カテゴリーを【 】で記す。また本研究の結果は、

通所介護施設での現場経験のある教育研究歴5年以上の研究者によるレビューを受けた。

3. 倫理的配慮

本研究における調査は、各 FGI 対象者に対して研究の目的及び内容等を書面及び口頭にて説明し、同意を得た上で実施した。また調査中であっても、調査を中断することが可能であることを伝えた上で行った。なお、本研究は日本社会福祉学会研究倫理指針に従うとともに、関西福祉科学大学倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号 15-30）。

4. 研究結果

本調査の結果、《レクリエーションを手伝う》《落ち着かない利用者への言葉かけ》《移動に関する簡単な介助を行う》《認知症の利用者に言って聞かせようとする》《理解できない言動をする利用者を嫌う》など、29 の重要アイテムが抽出された。そしてこれらの重要アイテムは、【身体に直接触れる手段的サポート】【身体に直接触れない手段的サポート】【間接的なサポート】【励まし・安心させるための言葉かけ】【健康や障がいにかかわる情報の提供】【特定の利用者を避ける】【ネガティブなサポート】【利用者における負担の増大】【事故が起こる危険性】【利用者同士の間に入って関係性を広げる】【利用者間のトラブルを回避するための介入】【危険を回避するための介入】の 12 の重要カテゴリーに分類された。

5. 考察

通所介護施設内における利用者間で行われるソーシャルサポートは、【身体に直接触れる手段的サポート】や【励まし・安心させるための言葉かけ】などが行われており、これらが【ネガティブなサポート】【利用者における負担の増大】【事故が起こる危険性】といった負の効果を生む可能性があることを確認することができた。また施設内においては、ソーシャルサポートを行う状況には至らずに、《理解できない言動をする利用者を嫌う》といった【特定の利用者を避ける】行動も確認された。そして施設職員は、これらを抑制するために【利用者間のトラブルを回避するための介入】や【危険を回避するための介入】を行っている。しかし施設職員が行うこれらの行動は、対処療法的なものであることから、問題を解決するための支援方法の検討が求められると言えよう。

デイサービス支援効果調査研究委員会『デイサービスの支援効果調査研究報告』2007 年

家高将明「高齢者デイサービスにおける支援効果の可能性に関する研究 -支援サービスにおける今日的課題-」人間福祉学研究 第3号 pp91-115 2010 年

家高将明ほか「高齢者通所サービスにおけるソーシャルサポート効果に関する研究」大阪ガスグループ福祉財団調査・研究助成報告書 Vol.26 pp15-22 2013 年

安梅勅江『ヒューマン・サービスにおけるグループインタビュー法 科学的根拠に基づく質的研究法の展開』医歯薬出版 2001 年